



式 辞

暖かな春の光を浴びた桜の木々には、たくさんの蕾が膨らみ始めています。春は確かに近づいてくるのです。異例の形とはなりましたが、皆様のご理解のもと式を挙行できますことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。そして今、一人一人に証書を手渡すことができ安堵しています。皆さん、卒業おめでとうになります。

「繋ぐ」と「未来に誇る」をキーワードに仲間を繋ぎ、当たり前を貫いて歩んだ皆さん。仲間を繋いだ取組みの1つは「コロナ感染症対策」です。保健委員会、給食委員会と執行部の協働で取り組んだ手洗いや消毒。図書委員会や生活委員会では密を避ける取り組み。後半からは体育館利用も可能にした体育委員会。そして清掃委員会の呼びかけに応え、清掃を頑張る生徒の意識が93ポイントまで高まった。広報活動でも、美化委員会のほっこりする絵柄のポスターやタイムリーな新聞発行。執行部の「四中にテリオ」で委員会活動や各学年の生徒を繋ぐ放送を展開しました。日々の当たり前前の取組みこそが、安全と安心を約束する大切な活動であることを実証しました。

「繋ぐ」の特筆は、「フマキの七夕飾り」We Love Fourです。全校生徒の思いを繋ぎ形にして発信。沈みがちな心に勇氣と元氣、希望の光を与えました。今は、合格祈願メッセージや祝卒業メッセージ、感謝を伝えるビデオとして確かに一、二年生に引き継がれています。

二大フェスタは例年とは異なる形でしたが、皆さんの本気の姿に感動と笑顔が広がりました。また、修学旅行の代替え行事として、庄内探訪と学年レクを企画し、大いに楽しみました。

多くの制限のある中でも、前を向いて今できることに工夫を凝らし、成功させてきました。困難は、人を繋ぎ知恵を磨く契機となり、それを乗り越えるたくましく変わっていきます。皆さんの歩みは、新たな時代を切り拓く確かな力となって今ここにあります。

「生命は道を見つめる」。映画シムリシック・パークでマルコム博士のセリフ。多くの困難の中でも生きる希望は道を必ず探し当てるものです。そこに仲間がいたから互いをつなぎ勇氣づけ、四中愛の前向きな言葉が、未来に誇る新たな四中を創り上げました。心から感謝します。ありがとうございます。

さて、卒業にあたり大切に欲うす言葉。



一つ目は、「夢や希望の形」です。

今年大リーグから田中将大投手が東北楽天イーグルスに復帰しました。震災復興から二年目に、チーム一丸となり成し遂げた日本一の優勝。球場に沸き起こった「あとひとつ」の大合唱は感動的でもありました。どれだけ東北の人々に勇氣と元氣と笑顔、そして希望を届けたことでしょう。田中選手は「夢や目標に向かって頑張る姿は、とても素敵なのです。その頑張りやがて人生の財産になっていくはずです。」と語っています。

「希望は光」皆さんも思いは形にしよう。そして仲間がいたら更に力になります。

二つ目は、「今ある命を大切に」です。

水泳選手の池江璃花子さんがオリンピック予選3種目にエントリーしました。二年前に急性リンパ性白血病が見つかり、闘病生活。一年前に復帰。その後トレーニングを再開して、今年の二月には、東京都オープン水泳競技大会の50mバタフライで見事優勝。世界選手権8位に当たる好タイム。驚異的な復活です。発症したときの喪失感や過酷な治療に耐え「私は全力で生きます。」「ひとつの命があること自体に意味がある。」と語りました。

皆さんも、親御さんから命をいただき、今を一生懸命生きています。素晴らしことです。これからも精一杯生き抜くことが、大切な歩みです。

一人一人が希望の種となって地に根を生やし、芽を出し、枝を伸ばし、いずれは花を咲かせ実を結び、命を次の世代に繋いで欲しい。将来の酒田を創る人になって欲しいのです。

これまで卒業生一人一人を励まし、育てていただきました保護者の皆様はじめ、全ての方々に心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

卒業生のみなさん、「Do you love 田中。」という未来への出発点です。

そして明日へ、一人ひとりが、着実に前進しようという願いを込めて、式辞いたします。

令和三年 三月 十六日

酒田市立第四中学校 校長 西塚裕 恭